

相模原市内における特定外来生物クリハラリスの記録

秋山 幸也^{*1}・福島 佳恵^{*2}

*1 相模原市立博物館 *2 東京農業大学野生動物学研究室

はじめに

神奈川県内においてクリハラリス（別名タイワンリス）*Callosciurus erythraeus* は、1950年代に藤沢市江ノ島や鎌倉市で野外に定着していたとされるが、その由来には諸説あり、はっきりしたことはわからない（田村 2025）。現在は三浦半島から横浜市南部を中心に高密度で分布し、2000年代に入ったころから徐々に分布を北へ広げつつあり（園田・田村 2003）、2021年には相模原市と町田市の境界を流れる境川沿いの緑地で確認、撮影された。これを機に、クリハラリスの分布拡大に危機感を抱いた研究者などが「クリハラリス情報ネット」を結成し、行政、大学等研究機関、博物館などが協力して情報収集と対策の検討を行っている。

その後、市域で散発的にクリハラリスが確認、記録されており、今後、さらに確認記録が増加する可能性がある。現状の記録を整理し、今後の対策の基礎資料としたい。

表 1 相模原市内におけるクリハラリスの記録一覧

番号	確認初日	地名
①	2021.6.28	相模原市南区上鶴間本町 高木道正山河畔林
②	2022.1.2	大和市中央林間 中央林間自然の森 ※
③	2025.6.13	相模原市中央区高根
④	2025.8.4	相模原市南区西大沼
⑤	2025.11.13	相模原市中央区横山

※市域に隣接する樹林地のためここに含めた

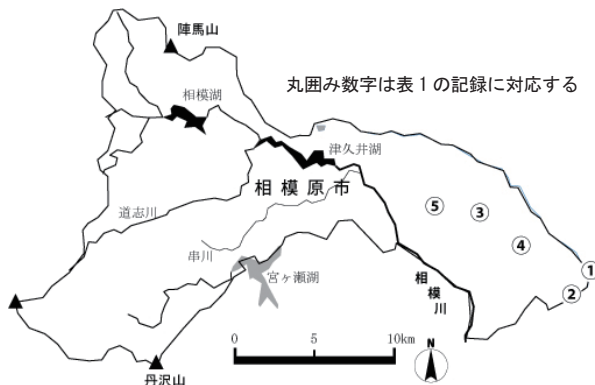


図 1 相模原市内においてクリハラリスが記録された地点

記録

これまで市域および隣接地域で確認した記録を表 1 にまとめ、位置を図 1 に示した。個別の記録の詳細を列記する。

①境川斜面緑地（2021年）

特定非営利法人境川の斜面緑地を守る会が管理・保全活動を行っている相模原市南区上鶴間本町の高木道正山河畔林において、近隣住民により電線を歩くクリハラリスの映像が撮影された（2021年6月28日、図2）。さらに同年7月8日にも守る会会員によって目撃、撮影された（図3）。その後、同地での確認記録は無い。



図 2 電線を歩くクリハラリス 相模原市南区上鶴間 2021年6月28日（撮影：クウ&ノンママ氏）



図 3 樹上を歩くクリハラリス 相模原市南区上鶴間 2021年7月8日（撮影：渡辺貴子氏）

②中央林間自然の森（2022年）

2022年1月2日に境川の斜面緑地を守る会の会員が、中央林間自然の森において1頭を目撃した。この個体はその後目撃が続き、撮影もされた。中央林間自然の森は相模原市と大和市にまたがる保存緑地で、大和市側を「中央林間自然の森」と呼び、相模原市側を「東林ふれあいの森」と呼んでいる。クリハラリスの目撃記録は大和市側に集中しており、光明学園相模原高校理科研究部が実施したコールバック調査においても、確認できたのは大和市側のみであった。相模原市側での記録は無いものの、連続した緑地であるためここに挙げた。

なお、この1個体については2025年2月20日に神奈川県鳥獣被害対策支援センターにより捕獲、駆除された。

③相模原市中央区相模原市立博物館裏（2025年）

相模原市立博物館（相模原市中央区高根）の西側には旧米陸軍キャンプ淵野辺跡地の処分留保地があり、ミズキ類を中心とした放置林が広がっている（秋山2019）。一部の区画は遊歩道が敷設され、市民に開放されているが、フェンスで仕切られて立ち入りが制限されている区画がある。著者の福島が、ここに生息するアナグマ等の生態を調査するため設置したセンサーカメラに、クリハラリス1個体が撮影されていた。これは2025年6月13日～7月4日まで撮影されたが（図4）、その後、記録が途絶えた。



図4 センサーカメラに映ったクリハラリス
相模原市中央区高根 2025年6月29日

④相模原市南区西大沼（2025年）

2025年8月4日に市民から相模原市水みどり環境課へ通報があり、西大沼2丁目の自宅庭先でクリハラリスを見たとのことであった。ブルーベリーの実を食べていたことと、数日前にも電線を歩く姿を目撃しているとのことで、識別の確度は高いと考えられる。

⑤相模原市中央区横山（2025年）

秋に実施されたミニ企画展「STOP！クリハラリス 特定外来生物の分布拡大を止めるために」で実施した目撃情報の観覧者アンケートに寄せられた情報である。2025年11月13日に相模原市中央区横山3丁目において「見た」という記録で、具体的な地番も記されていた。これ以上の情報は無いが、一連の情報の連続性から考えて可能性が高いと考えられるためここに挙げた。

まとめ

以上の記録の中で、写真や映像、捕獲により確定できるのは①、②、③の3件であるが、残り2件の目撃情報もタイミングや他の記録との地理的な位置関係から、確実性の高い情報と言える。今後、こうした分散個体を放置すれば、それを足掛かりに定着していくことが推測される。いわゆる“水際作戦”によって駆除等の対策を進めることが望ましいが、③の記録のように、こうした分散個体は短期間で移動していることも考えられるため、その動向を追うのは難しい。今後も情報収集に努め、動向を注視していきたい。

クリハラリスの情報や映像、画像を提供して下さったクウ&ノンママ氏、境川の斜面緑地を守る会の渡辺貴子氏、太田浄子氏、神奈川県立生命の星・地球博物館の鈴木聡氏、相模原市水みどり環境課に感謝申し上げます。

引用文献

- 秋山幸也,2019. 相模原市におけるキアシドクガの大発生とミズキ類への影響. 相模原市立博物館研究報告 (27) : 35-39
- 園田陽一・田村典子,2003. 神奈川県における土地利用とリス類3種（ムササビ・ニホンリス・タイワンリス）の環境選択性. 神奈川県自然環境保全センター2 : 13 - 17.
- 田村典子,2025. となりのクリハラリス .157pp. 東京大学出版会,東京